

The Small Intestine  
(Tutorials in Postgraduate Medicine Vol. 4)  
B. Creamer (Ed.)

独協医大内科教授  
原 田 尚

本書は William Heinemann Med. Books Ltd. の卒後教育叢書の第4冊である。

編者の Brian Creamer は London の St. Thomas 医学校の講師で、Creamer 自身を含む14名の内・外・放射線・小児科の専門医によって分担執筆されている。

序文にもあるように本書は小腸に関する完全な教科書でも専門書でもなく、小腸に関する最近のトピックスや考え方をまとめた中型書(302頁)である。

内容は、小腸の解剖・構造から始まり、主要疾患を中心に17章にまとめられ、独特なシェーマ、豊富な附図を含み、数多くの文献や索引もついている。

第1章は小腸の構造で、組織・電顕(走査電顕を含む)・免疫学的アプローチも含めて美麗な写真で述べられている。つづく第2章では、小腸の運動・血行動態・吸収(含水炭素・脂肪・タンパク・水・塩類・K・Cl・CO<sub>2</sub>・葉酸・鉄・B<sub>12</sub>・Ca・Mg)等がシェーマによって明快に解説さ

れている。第3章の研究法では、小腸の生検法および意義、電顕、組織化学、酵素生化学的研究、X線診断、化学検査(脂肪・含水炭素・タンパク・Ca吸収試験)等にふれている。

第4章は吸収不良で、その機構としては腸管内消化不良、胆汁の欠乏、粘膜絨毛の傷害、表層の生化学的障害、リンパ管の閉塞、腸虚血等があげられ、臨床像・合併症・治療のほか、protein-losing enteropathy についても述べられている。

第5章では吸収不良の病因として、胃手術後障害、迷走神経切断術、膵障害等をあげて解説、Zollinger-Ellison 症候群、胆汁塩欠乏症候群、Crohn 病、短腸症候群、腸停滞症候群等についてもふれられている。

第6章は Coeliac 病で、その病因・臨床・治療から合併症について解説、第7章は熱帯性 Sprue、第8章は他の原因の吸収不良症として、低ラクトーゼ症、IgA 等の免疫不全症状、Giardia lamblia、Whipple 病等について、第9章：Crohn 病、第10章：小腸閉塞、第11章：ウイルス

・細菌・カビ等による小腸感染中毒症、第12章：Cholera、第13章：Hookworm 病、第14章：小腸血管、リンパ性障害、第15章：腫瘍(リンパ腫、癌、良性腫瘍、カルチノイド等)内分泌疾患(腺性コレラ、Addison 病、糖尿病との関係等)、第16章：Kwashiorkor 症等、第17章：小児における各種小腸疾患等、小腸疾患全般にわたる多彩な内容である。

小腸に関する研究はまだその緒についたばかりで、吸収はじめ複雑な機能はそのごく一部をのぞいて不明の点が多く、将来の学問といってよい。

一方、小腸に関係すると思われる疾患の数はきわめて多いが、病因・症状・治療等検査法の発展につれ、これも次第に解明されて行くことであろう。

手頃な小腸研究入門書として本書の発行はまことに時宜をえたものといえる。

Bockus その他膨大な成書とは異なり、トピックスを中心とし独特な内容を持った本書は、研修医、若い研究者にとってよき小腸学教科書といえよう。

310 pp. with figs. 1974 ￥3,960  
William Heinemann Medical Books Ltd., London  
日本総代理店 医学書院洋書部